

池戸会報

香川大学農学部同窓会 池戸会

<https://www.bikita.jp/class/index.php?cl=d05997>



表紙写真 ▶ TAKE-V 集合写真

特集

農学部周辺の風景

長尾街道沿いのシュールなオブジェ

母校の近況

Interview 安井 行雄

学生のサークル等活動報告 TAKE-V

同窓生訪問 池戸会本部報告 卒業生のひろば

Vol. **64**

DEC. 2022

全会員配布

Contents

特集

「農学部周辺の風景」…………… 2
「長尾街道沿いのシュールなオブジェ」… 4

ご挨拶

池戸会会長 岩田 豊志… 6
香川大学農学部長 秋光 和也… 7

香川大学農学部

開学120周年記念事業 趣意書 …………… 8

母校の近況 …………… 11

卒業生へのメッセージ ～退職される教員より～
田村 啓敏 先生 …………… 11

Interview

「理論構築と仮説検証から
生物の進化に迫る」
安井 行雄 先生 …………… 12

同窓生訪問

竹下 圭 さん (博13・食糧科学) …………… 14

学生のサークル等活動報告

TAKE-V …………… 16

池戸会特別企画…………… 17
株式会社伏見製菓所「エコゼリー (Eco Jelly)」

池戸会本部報告…………… 18

逝去者一覧…………… 22

卒業生のひろば…………… 23
支部だより

令和3年度会員短信…………… 26

PayPayが利用できるようになりました。 … 33

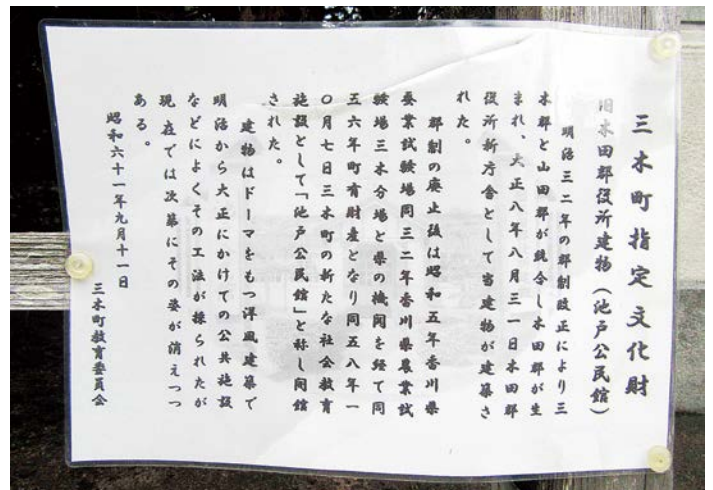
池戸会 Bikitaご利用手順…………… 34

池戸会 クレジット決済の手順 …………… 35

特集

農学部周辺の

風景



【池戸公民館】

光風寮から徒歩数分。個人的には近隣で最も素敵な建物だと感じています。大正8年、木田郡役所庁舎として建築。案内板によると、一時期、香川県農業試験場三木分場として使われていたこともあったようです。



【農学部東門のすぐ横、小さな神社、上池荒神社】
例年ゴールデンウィーク頃、美しい藤棚をみることができます。秋祭りの時期になると、夕刻、太鼓と鉦の音が聞こえてきます。地域の方が集まっての祭りに備えた練習でしょう。



【ことでん長尾線農学部前駅にあるかつての券売所】
今は自動券売機が駅に備え付けられており、その役目を終えました。ただ、この建物を見るにつけ、筆者が初めて香川大学農学部を訪れた25年前の思い出が過ぎります。



【京浜急行電鉄色のことでん】
ことでん長尾線には、東京と神奈川を結ぶ京浜急行電鉄で使われていた車両が走っています。ことでん長尾線は緑を基調とした車両ですが、期間限定で京浜急行色の車両が時折走っています。



【光風寮】
農学部生のための学生寮の光風寮。少し前まで学部生しか入寮できなかったと聞いていますが、最近は大学院生の入寮者もいるようです。



【池戸天満宮】
昔から変わらぬ風景を探そうと思うと、やはり神社仏閣に目が行きます。撮影に訪れた日、しめ縄右下に映っている張り紙に、獅子蓮への参加者募集告知がありました。三木町は「獅子たちの里」として近年注目を浴びています。



いつから彼女はそこにいたのか？思い起こせば筆者が学生時代（30年以上前）、長尾街道を本学に向けてバイクを走らせていると、ことでん農学部前駅から長尾街道につづく交差点端のリフォーム業者ブラザー電化住設入口に設置されたお風呂にタオル一枚巻いた美女がいつも腰を掛けつつろいでいた。そう！“通称、お風呂マネキン”である。マネキンだとわかっていても、思わず目が行ってしまうなんとも魅惑的なオブジェである。以前は、ショーウインドウの中でトイレに鎮座して読書をする“トイレマネキン”も。

筆者は前からこのシュールなお風呂マネキンが気になっていたの、勇気をふりしぼって、取材拒否覚悟で取材を申し込むと、意外にもマネキンのデコレーションを手がけられている小林さんは、「興味を持ってもらえて嬉しい!」とおっしゃって、快く引き受けてくださいました。

ブラザー電化住設¹⁾さんは、昭和20年9月の終戦直後に創業され、77年を迎えるという老舗の住宅リフォーム業者で、水道、電気、大工仕事など「家中まるごと」マルチに対応してくれます。現在の社長の熊野進一さんは、3代目になります。

2018年1月には、建物をリニューアルされ、しばらくは“お風呂マネキン”も姿を消していましたが、町の人から「あれがないと寂しい」という声に応じて復活しました。現在は、季節に合わせてお風呂マネキンも衣替えをします。2022年新年は“寅年”ということで虎柄ビキニの「アニメうる星やつら」のラムちゃん²⁾、春はランドセルを背負った小学1年生風に、梅雨の時期は雨ガッパ、夏はビーチでくつろぐ美女、秋はハロウィンの仮装、冬はクリスマスと長尾街道を通る人の目を季節ごとに楽しませてく



昭和44年頃の風景。左端が当時のブラザー電化住設さん、当時お風呂マネキンがあったかはこの写真からは不明



現在の風景。左端が現在のブラザー電化住設さん、ハロウィン仕様のお風呂マネキンが展示されています

れています^{3,4,5)}。

経営理念は、“お客様の喜びと満足を創造”ということで、コロナ禍で暗い世の中をちょっと明るくしてくれるお風呂マネキンは、まさに経営理念そのものである。

1) ブラザーという社名は元々初代の社長がご兄弟でお店を始めたのがきっかけのこと。
2) 「ラムちゃんの衣装は生地を買って手作りで作りました!」とのこと。
3) なにか面白いエピソードはありますか?との質問に、『お客様に「あの子はパンツ履いているのですか?」とよく聞かれます(笑)』とのこと。

4) 今後、なにか着せてみたい衣装は?という質問に「正月にはんてんを着せていましたが、今後は着物なども着せてみたいです。着物の寄付があれば……(笑)。
5) どのようなきっかけで、いつから展示されているのかは今回の取材ではわかりませんが、同窓生の皆さんからQRコードを通じてどこまでオブジェの存在が遡れるか情報を募集したいと思いますので、是非ともご回答ください。





令和4年（寅年）お正月バージョン



梅雨バージョン



夏バージョン



クリスマスバージョン



ハロウィンバージョン

謝辞

お忙しい中、取材にご協力頂いたブラザー電化住設の皆さん、特にオブジェのデコレーションを担当されている小林さんに深く御礼申し上げます。



ご挨拶

池戸会会長 **岩田 豊志** (学20)

新型コロナ禍に始まりロシアのウクライナ侵攻、そして円安に伴う物価上昇と内外ともに大変な時代を迎えましたが、池戸会会員の皆様にはご壮健でお過ごしのことと存じます。また、平素より同窓会活動に格別のご理解とご協力を頂いておりますことに厚くお礼申し上げます。

今年の6月19日に3年ぶりに対面形式での評議会、定期総会を開催することができました。その席で杉本利行会長の後任として会長を引き継ぐことになりました学20回卒業（園芸学科）の岩田豊志と申します。岡崎勝一郎さん（学19）に引き続き副会長をお願いし、新たに田辺和司さん（学20）、林宏年さん（学22）に副会長に就任していただくことになりました。役員一同、力を合わせて頑張っておりますので、よろしく願い申し上げます。

総会は農学部校舎をお借りして開催されますが、遠方の方々の出席は難しく、県内の会員もほとんど本部役員や支部長、評議員の方々が一般の会員の出席は限られています。県外から参加していただいた徳島、岡山の会員の方には感謝申し上げます。新型コロナ前までは毎年兵庫県からも参加していただいたのですが、今年はお目にかかることは出来ませんでした。早く新型コロナが終息し、県内外の多くの会員で総会会場が溢れるようになればと期待します。

11月3日には例年行われていた収穫祭、オープンキャンパスも開催されることになりました。在学生のソフトボール大会を主催し、農産品の販売でも協力することにしています。来客の皆様から好評の玉ねぎやカボチャ等の野菜やカーネーション等の花類に加えて、今年は同級生が遠く八幡浜からミカンを持って駆けつけてくれる予定です。誠にありがたいことです。ただ、留学生による国際色豊かな食事の提供

は出来ないようで残念です。

私の所属する西讃支部は役員の高齢化につれて活動が休止状態でしたが、10年前に復活することが出来ました。年に一度の支部総会とは別に豊中町を中心とした会員が年に3、4回ほど親睦会を開いています。毎回、支部会長を中心に、それぞれ元気で頑張っている姿や農作物の作況状況等話題は尽きません。お酒とともに心地良い時間を共有しています。最近はコロナ禍で開催が延び延びになっているのは残念で仕方ありませんが、近々再開できるものと期待しています。

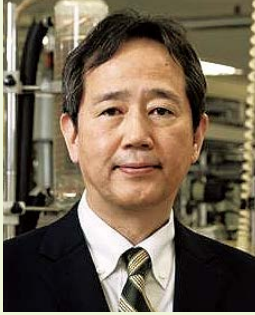
池戸会総会、収穫祭に続いてコロナによって休止状態であった支部活動も少しずつ動き始めました。11月13日には高松支部と高松東部支部の総会が先陣を切って開催される予定です。総会の後には合同の懇親会も計画されています。その他の支部の活動も再開され会員の交流の輪が少しずつ広がることを期待しています。地元香川県内の活動が刺激となって、県外の支部の再生・新設に繋がって欲しいものです。

在学生も既に池戸会の会員です。学生たちへの教育・就職活動の支援を通して池戸会の存在価値を認識していただければ、卒業後も活動に積極的に参加して貰える若い世代が増えると思います。将来を盛り上げる礎となり、母校香川大学農学部の発展にさらに協力できると考えます。

令和5年に農学部は開学120周年を迎え、記念事業を計画しています。120周年記念事業への寄付を募集していますので、会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のご多幸とご健勝をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

農学部長



ご挨拶

香川大学農学部長 秋光 和也

池戸会会員の皆様、日頃より香川大学農学部の教育研究活動に様々な形のご支援を賜り、誠に有難うございます。心より厚く御礼申し上げます。

1903年に農学部は木田郡立乙種農学校の設立で産声を上げ、来年2023年で開学120周年を迎えます。この長い歴史の中で、当学部は基礎研究の成果を実験室に留めることなく、粘り強く実用化に導いて参りました。香川大学のブランドワインにつながった当学部の新品種ぶどうの“香大農R-1”。香川県とともに、病気に強く、食味のよい品種を目指して開発された新品種“さぬきキウイっこ®”。さらに、讃岐三白といわれる砂糖、綿、塩に続く“希少糖”。特に希少糖は、2019年に竣工した世界初の希少糖専用メキシコ工場で、D-アルロース(=D-ブシコース)の大量生産が開始され、グローバルに大きく注目され始めました。生産研究とともに様々な研究分野で用途開発が推進されるようになり、大学全体の研究を牽引する大きなエンジンとなっています。

新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的大流行)発生から2年以上が経過しますが、まだ

はっきりした出口が見えているとは言えません。しかしながら、途絶えていた国際交流も少しずつ再開し始め、With コロナ, After コロナを意識して、今年は恒例の収穫祭も開催いたしました。今夏は、インドネシアの三大学(ガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学)と香川大学・愛媛大学・高知大学の六大学によるSUIJI(Six University Initiative Japan Indonesia)の小豆島研修として、インドネシアから6名の学生を迎え、さらに農学部生12名がベトナム・ハノイ工科大学で国際インターンシップを受講して参りました。全学生の約一割を目指して60~70名の留学生が在学する状況に戻るには、まだ何年かかると思いますが、日常が少しずつ戻り始めている実感があります。

明確な終焉が見えないということで、支部会・同窓会の開催もままならぬと存じますが、引き続き母校へのご支援のお気持ちを賜りますようお願い申し上げます。機会があればいつでも気軽に農学部キャンパスをお訪ね下さい。在校生・教職員一同、皆様のご来学を心よりお待ちしております。



香川大学農学部 開学120周年記念事業 趣意書

基礎研究の推進と研究成果の社会実装へ

使える人材の育成とともに

香川大学農学部は、その前身の設立から数えると開学120年で、香川の地より地域の要望に応えつつ世界に向けた研究活動を発信し、国内外との協働による実践力を強化する教育を進め、社会で役に立つ優秀な人材を輩出し続けています。当学部は明治36年（1903年）木田郡立乙種農学校の設立で産声を上げ、現在の農学部の所在地である三木町池戸の大宮八幡宮恵徳院の一隅を校舎として借用し、開学時の定員は200名であったと記されています。明治39年（1906年）に香川県立農林学校へ移管、大正11年（1922年）、昭和25年（1950年）にそれぞれ改称後、昭和30年（1955年）施行の国立学校設置法の一部改正に伴い、前身を継承する形で香川大学農学部として設置されました。

この長い歴史の中で、当学部は基礎研究の成果を実験室に留めることなく、粘り強く実用化に導くという特徴があります。香川大学ブランドのワイン“ソヴァジョーヌ・サヴルーズ”は、農学部で交配・育成した新品種ぶどうの“香大農R-1”を全量使用しています。また、当学部の数ある育種の取り組み中で、香川県とともに、病気に強く、食味のよい品種の開発を目指し、新品種“さぬきキウイっこ®”が生まれました。さらに、讃岐三白といわれる砂糖、綿、塩に続く讃岐の四白として、「希少糖」が農学部で開発されました。2019年に竣工した世界初の希少糖専用メキシコ工場が大量生産されたD-アルロース（=D-ブシコース）が、北米や日本国内で順調に販売され始め、国内外から大きく注目される存在となりました。国際競争が激化する中で、農学部の一研究室から開始された希少糖研究に香川大学全学部から70名以上の教授陣が参画して、生産研究とともに様々な研究分野で用途開発が推進されるようになり、大学研究を牽引する大きなエンジンとなっています。



ソヴァジョーヌ・サヴルーズ



さぬきキウイっこ



開学120周年記念の 寄付方法について

Faculty of Agriculture, Kagawa University
120th Anniversary

開学120周年記念の寄付は、**会報に同封されております専用の振込み用紙を用いたコンビニもしくは郵便局でのお振込み**、また、**クレジットカードからもお振込み**していただけます。

寄付は1口3,000円とさせていただきます。1口のご入金の場合は、金額が3,000円と記入されていますコンビニ兼郵便局振込み用紙を用いて、近くのコンビニもしくは郵便局でお振込みください。各種Pay請求書払いも可能です。

3,000円以上の金額（任意の金額で構いません）を寄付していただける場合は、金額が記入されていない郵便局の振込み用紙を用いて、金額をご記入のうえ、郵便局でお振込みください。



地域農業・産業の発展に向けて

農学部は、地域に根差した優良品種の育成・優良生物のゲノム解析（バイオインフォマティクス）・教員数が充実した園芸科学や食品科学分野・調査船「カラヌスⅢ」を有する海洋学・世界をリードする希少糖研究等で、地域農業・産業に大きく貢献するよう目指します。



スマート農業とSDGs学際研究の強化

スマート農業やSDGs対応には、農学だけではなく、幅広い自然科学系の技術・知見や社会科学系の視点が重要になってきています。学際的な研究進展や異分野との融合から、新しいイノベーションの創出を目指して、様々な形の取り組みが進んでいます。基礎研究の成果が、社会実装されやすい領域と捉えて、新たな挑戦を今後も続けます。

国際社会で活躍できる人材の育成へ

農学部は、グローバルセンスを持つ学生の育成に向けて、日本人学生が海外経験を積むための実践プログラムとともに、国費私費留学生を支える様々な留学生プログラムを用意し、日本人学生が留学生と過ごすことで、三木町に居ながらにして異文化経験や語学鍛錬が出来るように心がけていきます。



また、クレジットカードを利用したお振込みについては、本池戸会報35頁「池戸会クレジットカード決済の手順」をご参照頂き、池戸会Bikitaホームページより手続き下さい。なお、開学120周年記念の寄付は、手順②にあります「寄付をする」をクリックして、手順④にあります入力画面で「入金内容」から「開学120周年記念寄付金一口3,000円」を選択して、あわせてご希望の口数をお選び下さい(20口まで選択できます)。

尚、次回の会報に寄付をしていただいた方の氏名を一覧にして記載させていただきたく、ご了承をお願い致します。

▼同窓会HPはこちら



▼このアイコンからお進みください





香川大学農学部で過ごした 思い出の写真を募集します！

令和5年度に迎える香川大学農学部開学120周年に向けて、池戸会報では記念特集を企画しています。記念特集では、香川大学農学部の現在に至るまでの風景を映した写真を掲載したいと思います。そこで、同窓生の皆様から香川大学農学部で過ごした思い出の写真を募集します！在学当時の農学部の建物、研究室の仲間や恩師との思い出の一枚など、どのような写真でも結構です。農学部開学120周年の節目に、皆様の

思い出が蘇り、当時の懐かしさとともに装い新たに香川大学農学部を実感していただけるような記念特集記事を作りたいと思っていますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

写真は、画像ファイルをメール添付でお送りいただくか、現物あるいはその複写を郵送にてお送りください。なお、お送りいただく写真の個人情報に関する内容は、事前に関係者にご了承をいただきますようお願いいたします。また、ご提供いただいた写真は池戸会同窓会事務局にて保存させていただきます。写真の返送はいたしかねますので、ご了承ください。



昭和41年頃の正門

【送付先】

〒761-0795

香川県木田郡三木町池戸 2393

香川大学農学部同窓会池戸会事務局

✉ ikenobe-ag@kagawa-u.ac.jp

☎ 087-898-8615

*お名前と撮影した年や日付（〇年△月頃でも可）と簡単な説明を必ず明記ください。



メールは
こちらから



会員名簿 値下げしました

平成28年に発行された会員名簿ですが、まだ若干、池戸会事務局で在庫がございます。少し古い名簿ですが、半額で提供致します。名簿注文希望の方は、会報に同封されている年会費振込用紙を利用し、用紙の所定の欄に必要な事項を記入し年会費（2,000円）とともに名簿代金（5,000円または2,000円）を振込んでください。後日、名簿を送付いたします。

ハードカバータイプ（写真・左）

10,000円→5,000円（送料込）

ノーマルタイプ（写真・右）

4,000円→2,000円（送料込）



母校の近況 NEWS

教員の昇任

令和4年4月1日

教授 鈴木 利貞 (バイオマス化学)

令和4年4月1日

教授 Yonekura Lina (食品機能化学)

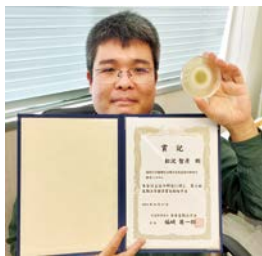
令和4年4月1日

教授 古本 敏夫 (植物機能化学)

学会賞

松沢 智彦先生

「植物の多糖類を分解する微生物の緻密な酵素システム」という課題で、日本生物工学会 生物工学若手賞を受賞されました。



中国 正寿博士 研究員

令和4年8月18日、19日に開催された瀬戸内海研究フォーラムin和歌山(特定非営利活動法人 瀬戸内海研究会議 主催)において、博士研究員の中国正寿氏が、最優秀ポスター賞を受賞されました。



松本 康生君 学部4年生

令和4年10月15日・16日、栃木県宇都宮市で開催されたeスポーツ選手権大会「全国都道府県対抗eスポーツ選手権 2022 TOCHIGI」の「Shadowverse学生部の部」において、学部4年生の松本康生君が、優勝しました。



卒業生へのメッセージ

～退職される教員より～

食品化学研究室 田村 啓敏 先生

1986年春に香川大学農学部食品化学教室の助手になり、手探り状態で研究を開始し、諸先輩方の立派な研究に刺激され、自分だって何かできるはずだと言い聞かせ、鼻柱の強い、若さだけの研究者としてスタートしました。事務職員を含め、たくさんの皆様に支えられ、今日に至ったことを、しみじみと感じ、大変お世話になりました。

着任当初、学内では留学への理解が非常にあり、月1度、農学部有志が作った英会話教室に参加し、30歳の時に、カリフォルニア大学デービス校のポスドクとして研究生生活を始めました。運転免許も現地で取り、ナパバレーやヨセミテ国立公園にも出かけた楽しい思い出があります。研究室には目新しい器具、機器はないのに、研究以外に縛られない、米国の自由度の高い研究を満喫しました。1年余りの期間に国際誌に4つの論文を投稿することができ、帰国後の研究の自信になりました。現在までに合計6名の国費留学生と共同研究の機会があり、合計15名の博士を巣立たせました。留学生とは英語で意見交換することで、英会話能力を高める機会になったと思います。国際学会の座長、ACSシンポジウムの主催、ACS symp本の編集・出版、アジア人財資金構想「日本の食の安全」特別コースの開設(現在14期生)、サクラサイエンスプラン(7年間7回)の実施などの機会を通じ、海

外との絆を沢山作ることができました。感謝!

一方、1999年春には、自動車事故に遭い、3か月以上に亘る入院生活を過ごしました。焦りもありましたが、片山先生には有機化学の講義を交代してもらい、学部の役割分担も軽めにいただきました。

最後に、卒業生ではないですが、今では母校となった香川大学農学部の益々の発展を祈念して、退職にあたり、お礼を述べさせていただきます。ありがとうございました。



2021年3月卒業



2020年2月タイ



1996年8月高知

理論構築と仮説検証から生物の進化に迫る



やすい ゆきお

安井 行雄

Yukio Yasui

編集委員：安井先生といえば“虫”と“進化”の二文字が浮かびますが、まずは先生がどのような幼少・青年期を過ごされてこられたのかお聞かせいただけますか。

安井先生：私は大阪府出身なのですが、物心ついた頃から虫を追いかける少年で、府内でもまだまだ自然が残っている箕面や石清水八幡宮（京都府）に独りで出かけていきました。タマムシをはじめて捕まえたのは9歳の時、憧れだったオオムラサキをはじめて手にしたのが高校3年生でした。昆虫採集は誰もが許されているハンティングですね。ヘルマン・ヘッセも「少年の日の思い出」に書いていますが、羽を開いてとまっている蝶に忍び寄って網をかぶせる瞬間の興奮たるや！

編集委員：私も生き物を捕まえるのがこの世で一番面白いと思っていますので、お気持ちはよくわかります。その昆虫少年が本学の農学部に着任されるまで、どのような道を辿って来られたのですか？

安井先生：昆虫の研究がやりたかったので京都府立大学農学部に入学したのですが、大好きだった蝶については3年生で横に置くことにして、卒論では実験系で研究ができるダニを選びました。分類や害虫としての研究はありましたが、進化生態や行動生態に関する研究者は少なかった。修士課程を経て、博士課程は北海道大学に進学してダニの研究を続けました。精子競争の研究で、当時は世界で最初の研究だったと思います。ポストク時代にはメスが多回交尾をすることで遺伝的に優れたオスの子孫を残すという“Good Sperm 仮説”を提唱しています。このポストク時代に、幸運にも精子競争の父と呼ばれるリバプール大学のジェフリー・パーカー博士を訪ねることができました。「君がこの論文に書いたことは、私も思い当たらなかった」と言われて大感激したのを覚えています。この時、かつて博士の研究室にポストクとして在籍していたシモンズ博士と知り合い、2010年に客員研究員として西オーストラリア大学に10ヶ月間滞在するきっかけにもなっています。

編集委員：農学部に着任されてからも多回交尾の研究を続けられていますが、現在の状況と今後についてお聞かせいただけますか。

安井先生：これまでに実験生物としてダニやアズキゾウムシ、野外での生態調査ではハウネンエビなどを手掛けてきましたが、オーストラリ

アで共同研究を行ってからはコオロギも使うようになりました。多回交尾に関する進化適応を検証するためですが、いずれにしても、理論と飼育実験による実証を行ってきたことになります。これらの研究成果を基に、今年“性の進化”について新仮説を出せましたし、“bet-hedging”（生き残るための危険分散）の概念を再構築するなど、これまでの仕事をかなりまとめることができました。今後はこれをさらに検証すること、その普及が目標ですね。

また、皆さんの常識の中に正しく進化の概念を根付かせることも私の目標です。進化というのはきちんとした証拠があって、生き物は神様が作ったものではない。進化とは何か？という問いにきちんと答えられる人を作りたいと思って、いつも授業をやってるんですけどね。進化とは、世代間で遺伝的に構成されたものが変化すること。決して大きな変化だけではなくて、ごく短い時間であっても世代間で平均値が変われば、それは進化なんです。このことをもっと知って欲しいと思っています。



これがヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」に登場するクジャクヤマムシです



憧れだった蝶 オオムラサキ



研究室の皆さんと

Profile

安井 行雄 (やすい ゆきお)

准教授、博士（農学）（北海道大学）

専門分野：進化生態学

卒業生の皆さんへのメッセージ

研究室やフィールド、学会等で過ごした日々が懐かしく思い起こされます。高仙山のカラスアゲハは今も健在。農学部をお訪ねください。

同窓生訪問

株式会社伏見製薬所 糖質バイオ研究部 機能性糖質グループ

竹下 圭さん (博13・食糧科学)

今回の同窓生訪問は、株式会社伏見製薬所糖質バイオ研究部機能性糖質グループで課長を務められている竹下圭さんです。瀬戸大橋を東側間近に臨み、丸亀市の湾口工業地帯に立地する株式会社伏見製薬所港町事業所にて、日々、研究開発に従事されています。バリウム造影剤や防腐剤に使用する安息香酸類で国内トップシェアを有するメーカーの中で、糖質バイオ分野に関する研究開発でご活躍。近年では農学部との共同研究だけでなく、講義においても企業目線の興味深い話題提供により、在学生に刺激を与えています。博士課程までの学生時代の中で、希少糖の黎明期にふれ、多くの人とのつながりが今日の研究開発につながっていることを穏やかな雰囲気でお話頂くことができました。



編集委員：まずは、香川大学農学部入学までの経緯についてお聞かせください。

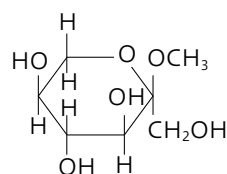
竹下さん：実家は呉市の倉橋島で、海のすぐ近くで育ったものですから、海に興味や関心があったと思います。近くに水産試験場（現：広島県水産海洋技術センター）があり、漠然と海に関した仕事をしてみたいと考えていました。高校生の頃には、赤潮関連の書籍を介して、香川大学農学部には岡市友利先生がいらっしゃることも知りました。文系か理系か迷っていたその頃の体験は、農学部を目指した一つの理由になっていたように感じます。晴れて入学し、地元を離れて香川県で暮らすようになると、高松市でも海が遠いと思うぐらいでした。

編集委員：大学時代の思い出についてお聞かせください。

竹下さん：農学部で様々な学問分野の勉強をしていく中で、酵素の働きに興味を持つようになりました。酵素を使うことは、バイオや食品関連などの様々な産業技術にも通じる、汎用的技術を学ぶことになると思い、何森健先生の応用酵素化学研究室に所属し、博士課程修了まで在籍しました（その間、修士課程修了後1年間は高校教員としても奉職）。1990年代半ば、研究室では微生物の酵素反応を利用してフルクトース（果糖）を原料に希少糖の一種プシコースを生産する方法について研究していました。その頃の生産スケールは小さく、4年生は一年かけて研究し、数gの希少糖をつくって卒業するという状況でした。さらなる希少糖の研究を進めるにはより多くのプシコースが必要になっていました。折しもそのような状況の中、たまたま立ち寄った近所の

Grewia asiatica

トロピカルフルーツに含まれる希少糖の一種



メチル-L-ソルボシド



皮膚にいる悪玉菌（ニキビ、加齢臭悪化要因菌）選択的に抗菌作用します。バリア機能を担う善玉菌（表皮ブドウ球菌）には効果を示しません

スーパーで、梅酒用にフルクトースが安く（およそ200円/kgで試薬の1/10程度）売られていました。末端製品として売られていないと思っていたので早速、購入、分析すると試薬と変わらない純度でしたので、大量生産の原料として使うこととしました。ともかくも原料は確保できましたのでこれを使って酵素反応を行い、フルクトースとプシコースの混ざった液の調製が出来ました。次に問題になるのはプシコースの精製（単離）です。当時、精製はフルクトースとプシコースの溶液をカラムに通液し、カラムに充填されたイオン交換樹脂に対する各糖の親和性の差を利用して分けていました。処理量は少なく、数日かけてわずかに数gの回収でしたので、とてもたくさん処理できないのが問題でした。

そんな中、退官した先生がいらしたのか農学部のゴミ捨て場に大きく立派なガラス瓶（20Lくらい）2本が捨ててありましたので何かに使えたらと思い、回収しました。せっかくだから何かに使えないか考えた時、酵



糖や糖質誘導体の生産・精製に関する微生物培養装置、有機合成反応タンク設備が完備されています

母による発酵法でプシコースを精製することを思いつきました。原理は簡単で、酵母はプシコースを食べることが出来ませんが、フルクトースを分解、代謝しますので、混合物溶液と酵母を混ぜておけばプシコースだけになるという方法です。早速、ホームセンターに行き、金魚飼育用のエアポンプを購入してガラス瓶にセットし、簡易的な培養装置を組みました。また、酵母はパン工場で製パン用の生イーストが使われているとわかりましたので、高松市のパン工場に行き、500gの生イースト分けてもらいました。酵母は培養で得ようとする培養液1Lあたり数十gほどしか回収できませんので、培養の手間を省き、大量に使えることになりました。振り返りますと、学生の突然の訪問にも対応してくださったパン工場の方にはとても感謝しています。この簡易的な装置(?)を使った酵母資化反応の効果は抜群でした。ガラス瓶にフルクトースとプシコースを仕込むと2日程度で何百gものプシコースが回収できました。フルクトースから生じたエタノールの匂いが部屋に充満していたのが印象に残っています。これが私の希少糖の大量生産の第一歩だったと思います。その後、分取精製用に擬似移動層方式クロマト分離装置が導入され、その難しい原理や操作法を習得するのにとても苦労しましたが、飛躍的に生産量が増え、量だけでなく研究の質が変わっていったことを覚えています。

研究以外では、農学部に近いアパートで生活していましたが、両隣が同じ学年の大講座生だったことも有り、日々、楽しかった思い出があります。アルバイトは家庭教師、警備、しめ縄づくり、引っ越しなどいろいろしたおかげで経済的には少し余裕があり、同級生と毎週、飲み会をやっていました。6畳の部屋で最高15人という日もあったくらいです。また、車も購入できたので、皆と色々な

場所に出掛けたことも良い思い出です。そのためか単位を落とすことはありませんでしたが、社会人になり、資格の関係で成績証明書を取り寄せた際に「可」がずらりと並んでいたのには驚きました。

編集委員：就職のきっかけや現在のお仕事についてお聞かせください。

竹下さん：博士課程在学中に、希少糖に注目していた現在の会社との縁で2001年入社が決まりました。これまで、一貫して糖の合成とバイオの融合に関わってきました。例えば、この3年間は、経産省のサポイン事業(戦略的基盤技術高度化支援事業)の採択をうけて、農学部の古本敏夫先生や創造工学部の石井知彦先生、元香川大学農学部で九州大学農学部の竹川薫先生と共同研究で、メチル-L-ソルボシドという糖の開発も行っています。この糖は、南アジアで食べられているファルサというトロピカルフルーツに含まれており、メタノールとソルボースが縮合したものです。皮膚常在菌の中でも、皮膚表面でニキビや加齢臭を悪化させる悪玉菌選択的に抗菌性を示し、バリア機能を担う善玉菌には作用しないという全く新しい機能を見出しましたので製法や機能性、安全性を確認しながら事業化を進めています。

編集委員：最後に、現役学生や同窓生にむけてお願いします。

竹下さん：私の専門は糖質の製法や機能性開発に関するものですが、有機合成化学、錯体化学、天然物抽出など他分野の専門家に接することがあります。そういう人たちと交流することで、同じ対象を全く異なる視点でとらえていることがあり、刺激をうけることがよくありました。

また、企業では開発したものを製品化するには研究だけでなく、製造、営業、品質管理などいろいろな部署と関わることになります。是非、在学中から積極的にいろいろなひととコミュニケーションをとるのはいかがでしょうか。

農学部軽音サークル TAKE-V



ニューフェイス

新入生初めてのライブです！

今年は1年生が16人入部してくれました。入部当初から雰囲気が高く、すごく仲の良い代になりそうでとても嬉しいです。また、楽器に関しても、みんな練習熱心で、上手に演奏することができていました。

サマーコンサート

毎年、夏休みの初めに開催されているコンサートです。

昨年、一昨年は感染症の影響もあり、開催できていなかったのですが、今年は2年ぶりに開催することが出来ました！

久しぶりのサマーコンサートだったため、みんなバンドを組み過ぎてしまい、練習がとても大変そうでした。



オータムコンサート

毎年、夏休みの終わりごろに行っているコンサートです。

早くもメンバーが1年生のみのバンドが結成されており、上達の速さを感じました。初めは先輩ばかりのライブで緊張していた1年生でしたが、今では手をあげて、一緒に盛り上がっています！

まとめ

現段階で、オータムコンサートまでが終了しており、今後も、学園祭、定期演奏会、追い出しコンサートとライブを行っていく予定です。コロナ禍でサークル活動が非常に減少していましたが、今年度から活動の規制が少し緩和され、元のTAKE-Vに戻りつつあります。今後も、定められたルール内で、最大限楽しめるような活動を行っていきます！

池戸会特別企画

農学部卒業生が多数勤めている株式会社伏見製薬所の

「エコゼリー(Eco Jelly)」を 抽選で10名様に プレゼント!!



エコゼリーとは切花を清潔に長く楽しむために開発された保水材です。

切花に必要な栄養素や抗菌剤を含んだゼリーで、成分は天然の素材を起源に構成されており、最後は分解され、無くなる、環境に大変優しい商品です。

以下のURLに詳細がありますので、是非見てください。

<http://www.ecojelly.jp/recipe/>



応募資格 令和4年度の会費を納められた池戸会正会員（80歳以上で会費納入を免除された方を含む）および入会金を納められた池戸会準会員。

会報に同封のはがきに**プレゼント券**（このページ下部）を貼付して、**郵便番号、現住所、氏名（準会員は学生および保護者の両名）、電話番号、卒業年度（在学年次）、学科等、近況通信等**を書いて下記まで郵送して下さい。ご記入いただいた近況は池戸会報に掲載する場合があります。

送り先 香川大学農学部同窓会 池戸会事務局
〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸2393 香川大学農学部内

応募締切 **2023年3月17日 金曜日（必着）**
当選者発表 池戸会報65号（池戸会ホームページでも発表します。）

問い合わせ先 香川大学農学部同窓会 池戸会事務局 電話：087-898-8615
E-mail：ikenobe-ag@kagawa-u.ac.jp



『AROMA de mask』当選者のお知らせ

池戸会報第63号でご案内しておりました池戸会特別企画「AROMA de mask」に多数のご応募いただきましてありがとうございました。厳正なる抽選の結果、10名の当選者を発表いたします。



瀬尾 光興 様	村山 勝一 様	山本 修 様
光山 治夫 様	彦坂 昌敏 様	盛野 元 様
柳川 和彦 様	佐藤 義徳 様	武智 徹 様
船本三千夫 様	(順不同)	



池戸
64

エコゼリー
プレゼント券

池戸会 本部報告

令和4年度 池戸会本部役員

会 長 岩田 豊志 (学20・園芸)	中杉 光廣 (学21・園芸)	岡山
副会長 岡崎勝一郎 (学19・食品)	森 宏樹 (学23・農工)	
田辺 和司 (学20・農学)	平澤 正恭 (学18・食品)	
林 宏年 (学22・農工)	黒川 義夫 (学17・農工)	
顧問 農学部長 秋光 和也	木村 義一 (学19・農学)	
前会長 杉本 利行 (学16・農化)	千田 良信 (学19・園芸)	
前々会長 五井 正憲 (学8・園芸)	川東 敬幸 (学22・農工)	
評議員 (下記一覧表)	松原 智子 (学24・食品)	
監査員 松下 時夫 (学17・食品)	柴野ゆりか (学32・農学)	
末澤 克彦 (学25・園芸)	三野 真弓 (学34・園芸)	
理事 古市 崇雄 (学34・農学)	多田 邦尚 (学28・農化)	総務
高嶋 茂樹 (学29・農工)	木村 義雄 (学31・食品)	会計
川崎 陽通 (学24・農工)	奥田 延幸 (学34・園芸)	総務
香川県庁	田淵 光昭 (学37・生物資源)	会報
高松市役所	田中 直孝 (学40・生物資源)	学内活動・情報
徳島	幹事 山口 一岩 (学32・生物資源)	
	吉原 明秀 (学49・生資食化)	

令和4年度 各支部長及び支部選出本部評議員一覧表

支部名	支部長	評議員	評議員	評議員
大 学	多田 邦尚(学28)	木村 義雄(学31)	奥田 延幸(学34)	
県 庁	岡崎 力(学33)	古市 崇雄(学34)	松平 和也(学35)	
市 役 所	里石 明敏(学31)	壺井多川士(学33)		
三 木		森 宏樹(学23)	本田 正聡(学27)	
大 川	千田 良信(学19)	國方 聖三(学18)	松崎 朝浩(学28)	
高 松 東 部	平賀 博(学11)	片山 哲治(学15)	林 宏年(学22)	
高 松 中 央		(再生中)		
高 松	木村 義一(学19)	山本 洋一(学19)	田辺 和司(学20)	
高 松 西 部		片岡 浩一(学5)	片岡 光孝(学12)	
龍 雲	白坂 正明(学1)	石塚 侖(学1)	溝渕 昭七(学1)	
高 松 南 部	川東 敬幸(学22)	高尾 武司(学19)	奈良 稔(学22)	
小 豆	井藤 龍平(学20)	前田 満照(学21)		
香 川	新明 昇(学16)	青木 敏(学20)		
綾 川	小比賀和教(学9)	西谷 寛昭(学19)		
坂 出				
仲 多 度	平澤 正恭(学18)	北山 信夫(学19)	各務 好行(学20)	
西 讃	永田 陽頼(学20)	篠原 重寿(学21)	近藤 博樹(学34)	
愛 媛	矢野 庄志(学4)	山本 勝教(学13)		
高 知	中澤 祥子(学54)	和田 達夫(学15)		
徳 島	川崎 陽通(学24)	山出 省吾(学19)	安富 範雄(学19)	中西 健(学36)
岡 山	尾野田瑞穂(学26)	羽原 政明(学17)	野村 正己(学18)	猶原 順(学27)
広 島	木村 博俊(学17)	今中 義彦(学11)	中山 長秀(学22)	
島 根	桑原 克夫(学22)	水野 正美(学23)		
山 口	松原 賢治(学17)	長山 幸範(学28)	平田 良美(学34)	
兵 庫	葛西 利延(学8)	岩崎 俊一(学15)	武田 和義(学17)	田村 哲哉(学34)
大 阪	柳川 和彦(学26)	植原 米一(専2)	大井 寛(学11)	土居 修(学18)
京 滋	米川 順一(学27)	平川 潤(学30)	清水 文雄(学36)	
奈 良	那波 和志(学27)	山本 英雄(学14)		
東 京	祖父江 晋(学22)	伊藤 研治(学22)	井藤 智臣(学23)	
三 重		高井 章(学8)		
愛 知	鈴木 和昭(学19)	高橋 順一(学18)	小田 利一(学26)	

令和3年度 事業報告

- 評議員会、総会の開催 令和3年6月20日(日)書面議決
評議員会のみ開催し、書面議決で代替
- 名簿配布 要望のあった方で身元が明らかな方
- 支部活動の援助 令和3年度卒業・修了生の名簿の送付
(希望された支部)
- 支部総会の助成 開催支部への祝い金の贈呈、本部役員、
教員の出席(通年)
全ての支部で総会の開催ができず、助成
金の支出はなし。
- 同級会及び個人会員へのサービス、会員動向調査(通年)
- クレジットカード決済の開始
- 池戸会報第63号編集発行、8,500部、全員配布(12月)
- 学内活動
 - 1) 新入生への祝い品・会報の贈呈(4月・9月)
 - 2) 新入生からの入会金の徴収(4月~12月)
 - 3) 令和3年度卒業生・修了生に記念品(学位記ホルダー
等)の贈呈(9月・3月)
- 池戸会活性化対策事業
コロナの影響で活動できず。
- 令和3年度支部総会開催状況
すべての支部で総会の開催ができず。



令和3年度 収支決算書(一般会計)

(令和3年4月1日~令和4年3月31日)

収入額	6,474,627円
支出額	4,940,150円
差引残額	1,534,477円

収入の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	差引増減(円)
前年度繰越金	1,609,110	1,609,110	0
会費	1,900,000	1,904,000	4,000
入会金	2,200,000	2,500,000	300,000
寄付金	500,000	461,500	△38,500
利息	0	17	17
雑収入	0	0	0
合計	6,209,110	6,474,627	265,517

支出の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	差引増減(円)
人件費	1,200,000	1,078,000	△122,000
旅費	200,000	98,420	△101,580
事務費	80,000	40,882	△39,118
通信費	1,200,000	1,257,234	57,234
事務室使用料	220,000	222,173	2,173
会議費	20,000	3,049	△16,951
会報費	1,200,000	1,211,052	11,052
支部総会助成費	100,000	0	△100,000
支部援助費	20,000	16,800	△3,200
同窓活動費	30,000	44,267	14,267
学内活動費	300,000	261,404	△38,596
振替手数料	230,000	184,869	△45,131
雑費	0	22,000	22,000
予備費	1,409,110	0	△1,409,110
積立金	0	500,000	500,000
合計	6,209,110	4,940,150	△1,268,960

令和3年度 収支決算書(特別会計)

(令和3年4月1日~令和4年3月31日)

収入額	1,020,132円
支出額	4,440円
差引残額	1,015,692円

収入の部

費目	決算額(円)
繰越金	976,124
名簿収入	44,000
利息	8
合計	1,020,132

支出の部

費目	決算額(円)
名簿作成費	0
送料	4,440
雑費	0
合計	4,440

■ 会費（個人振り込み）地域別納入状況

令和4年3月31日現在

地域	県名	元年度(人)	2年度(人)	3年度(人)
四 国	香 川	604,000円 (263)	542,000円 (259)	568,000円 (248)
	徳 島	140,000円 (34)	86,000円 (41)	70,000円 (33)
	高 知	46,000円 (17)	24,000円 (12)	24,000円 (9)
中 国	愛 媛	38,000円 (17)	52,000円 (26)	40,000円 (20)
	岡 山	228,000円 (104)	340,000円 (116)	208,000円 (93)
	広 島	56,000円 (27)	80,000円 (36)	70,000円 (33)
九 州	鳥 取	6,000円 (3)	6,000円 (3)	12,000円 (6)
	島 根	20,000円 (10)	20,000円 (9)	26,000円 (12)
	山 口	58,000円 (23)	48,000円 (24)	24,000円 (12)
	福 岡	20,000円 (10)	28,000円 (12)	44,000円 (13)
	佐 賀	4,000円 (2)	2,000円 (1)	4,000円 (2)
	長 崎	16,000円 (8)	14,000円 (7)	14,000円 (7)
	熊 本	8,000円 (4)	6,000円 (3)	6,000円 (3)
	大 分	26,000円 (13)	36,000円 (18)	28,000円 (14)
	大 宮	24,000円 (8)	10,000円 (5)	8,000円 (4)
	鹿 児 島	8,000円 (4)	10,000円 (5)	22,000円 (9)
沖 縄	沖 縄	6,000円 (3)	8,000円 (3)	10,000円 (4)
	兵 庫	160,000円 (69)	170,000円 (80)	142,000円 (69)
	大 阪	140,000円 (62)	120,000円 (51)	150,000円 (67)
	大 都 府	48,000円 (15)	52,000円 (18)	24,000円 (11)
	滋 賀	22,000円 (11)	18,000円 (9)	28,000円 (14)
	奈 良	22,000円 (11)	24,000円 (12)	20,000円 (10)
東 海	和 歌 山	30,000円 (11)	22,000円 (11)	24,000円 (12)
	三 重	10,000円 (5)	12,000円 (6)	12,000円 (6)
	愛 知	78,000円 (32)	78,000円 (28)	50,000円 (24)
	岐 阜	4,000円 (2)	16,000円 (4)	12,000円 (6)
関 東	静 岡	20,000円 (8)	36,000円 (12)	34,000円 (12)
	東 京	62,000円 (27)	56,000円 (22)	46,000円 (21)
	神 奈 川	60,000円 (23)	46,000円 (23)	38,000円 (19)
	埼 玉	30,000円 (15)	32,000円 (16)	36,000円 (18)
	栃 木	6,000円 (3)	4,000円 (2)	8,000円 (4)
	群 馬		4,000円 (2)	2,000円 (1)
	茨 城	16,000円 (4)	10,000円 (5)	8,000円 (4)
信 越	千 葉	44,000円 (17)	134,000円 (14)	48,000円 (18)
	長 野	12,000円 (2)	8,000円 (4)	2,000円 (1)
	山 梨	6,000円 (3)	6,000円 (3)	6,000円 (3)
	富 山	2,000円 (1)	2,000円 (1)	2,000円 (1)
北 陸	新 潟	4,000円 (2)	4,000円 (2)	8,000円 (4)
	石 川	4,000円 (2)	4,000円 (2)	4,000円 (2)
東 北	福 井	10,000円 (4)	4,000円 (2)	6,000円 (3)
	福 島	4,000円 (2)	2,000円 (1)	2,000円 (1)
	山 形			
	宮 城	2,000円 (1)	2,000円 (1)	2,000円 (1)
	秋 田			
北 海 道	岩 手			
	青 森			4,000円 (2)
北 海 道	北 海 道	4,000円 (2)	12,000円 (6)	8,000円 (3)
合 計		2,108,000円 (884)	2,190,000円 (917)	1,904,000円 (859)
	前 年 比	+114,000円 (-6)	+82,000円 (+33)	-286,000円 (-58)
	うち個人振込	(-33)	(+59)	(-70)
	支 部 経 由	(+27)	(-26)	(+12)

■ 令和4年度 事業計画

- 評議員会、総会の開催（令和4年6月19日 農学部）
 - 支部活動、同期会等開催の支援
 - 支部総会等へ本部役員及び教員の派遣
 - 名簿情報等の提供
 - グループでの学内見学希望者のお世話
 - その他
 - 同窓会活動活性化対策
 - 県外支部の再生・新設（卒業生が100名を超える県から）
昨年度に計画した活動は新型コロナウイルスの影響により計画したことが全く活動出来なかったことから、再チャレンジする。
 - 県内支部の活性化及び再編
将来を考え、何がベストかを導き出したい。
 - 収穫祭への参加（コロナによる）
 - ホームページ（Bikita）の利用促進
登録者数の増大と会員相互の活発な情報発信への活用促進
 - 入会金納入率の向上
新入学者の父兄への啓発活動の推進
保護者への会報配布（4年間）
 - その他
 - 学内活動
 - 新入生への祝い品・会報の贈呈（4月・9月）
 - 新入生からの入会金の徴収（4月～10月）
 - 第34回学内ソフトボール大会の主催（11月）
 - 農学部収穫祭への協力
 - 令和4年度卒業生・修了生に学位記ホルダーの贈呈（9月・3月）
 - その他
- ※上記行事計画等につきましては、新型コロナウイルス感染症の今後の状況により、出来る範囲で実施することとします。
- 池戸会報第64号の編集発行 全員配布

令和4年度収支予算書

予算額 6,134,477 円

収入の部

費目	3年度予算額(円)	4年度予算額(円)	差引増減(円)
前年度繰越金	1,609,110	1,534,477	△74,633
会費	1,900,000	1,900,000	0
入会金	2,200,000	2,200,000	0
寄付金	500,000	500,000	0
利息	0	0	0
雑収入	0	0	0
合計	6,209,110	6,134,477	△74,633

支出の部

費目	3年度予算額(円)	4年度予算額(円)	差引増減(円)
人件費	1,200,000	1,200,000	0
旅費	200,000	200,000	0
事務費	80,000	200,000	120,000
通信費	1,200,000	1,300,000	100,000
事務室使用料	220,000	230,000	10,000
会議費	20,000	20,000	0
会報費	1,200,000	1,200,000	0
支部総会助成費	100,000	100,000	0
支部援助費	20,000	20,000	0
同窓活動費	30,000	30,000	0
学内活動費	300,000	300,000	0
振込手数料	230,000	230,000	0
雑費	0	200,000	200,000
予備費	1,409,110	904,477	△504,633
積立金	0	0	0
合計	6,209,110	6,134,477	△74,633

住所不明者一覧

本部事務局では、会員名簿台帳の作成・会報の配布・各支部への会員所在通知などのため、全会員の住所等を正確に保持するのに苦勞しています。現在、下記の方々の所在が不明です。ご存知の方はご面倒ですが本部までご一報下さい。本部の連絡先は、裏表紙に記載してあります。

令和3年度住所不明者一覧

住所不明者一覧のリストがここに表示されます。

会費納入のお願い

本会報に同封の郵便振替用紙またはコンビニ・郵便局兼用振替用紙にて、年会費2千円の納入をお願いします。数年分をまとめて振り込んでいただいても、各支部でまとめて納入いただいても結構です。なお、80歳以上の方は無料です。令和3年度会費納入者名簿を本会報に同封していますのでご参照ください。

来年度総会のお知らせ

令和5年6月18日(日)に農学部にて開催予定です。総会ですので、皆様ご出席下さい。出席される方は事務局までご連絡下さい。

逝去者一覧

石井 幸憲	41 (蚕3)	令和3年12月13日	龍雲支部より	落 博之	学6	令和3年11月30日	返信はがきより
瀧川 博文	42 (農 専2・ 農大1)	令和2年11月12日	返信はがきより	高尾 貞夫	学6	令和3年1月	佐々木省三様 (学8)より
酒井 照己	43 (45)		返信はがきより	今井嘉太郎	学8	令和3年2月26日	返信はがきより
田淵 一郎	46 (中1)	令和元年12月20日	返信はがきより	平松 澄次	学10	令和3年3月	返信はがきより
谷本 繁男	47 (中2)	令和3年7月	返信はがきより	片岡 光孝	学12	令和3年12月17日	返信はがきより
野口 中央	47	令和3年2月26日	返信はがきより	長岡 勝己	学12 (攻8)	令和3年3月	返信はがきより
山下 典夫	47	令和3年8月4日	返信はがきより	溝淵 俊明	学13	令和3年9月26日	返信はがきより
吉田 正美	47 (中2)	令和4年8月10日	返信はがきより	奈良 俊秋	学16	令和2年10月24日	返信はがきより
横関 光男	農専1	令和3年9月16日	返信はがきより	竹内 光人	学17	令和3年2月	返信はがきより
植原 米一	農専2	令和4年5月21日	ご家族より Bikitaに連絡	中川 正幸	学20	令和3年4月19日	返信はがきより
高松 一幸	学1	令和3年9月20日	返信はがきより	中間庭秀明	学21	令和2年11月	返信はがきより
東 純雄	学1	令和2年1月28日	ご家族より TEL	佐伯 泰弘	学23	令和3年9月	返信はがきより
大野 滋子	学3	令和3年12月21日	返信はがきより	田中 直裕	学24	令和3年11月	返信はがきより
紫和 義嗣	学3	令和3年8月28日	返信はがきより	山下 修司	学26	令和3年7月22日	返信はがきより
前川耕一郎	学3	令和3年3月	返信はがきより	安達 博	学27	令和4年8月	五井正憲様 (学8)より
南 充明	学3	令和3年7月6日	返信はがきより	小池 知明	学35	令和3年12月15日	返信はがきより
吉田 茂春	学3	令和4年9月19日	返信はがきより	三好 宏幸	学36 (修24・ 博8)	令和2年8月31日	返信はがきより
浅原 秀志	学5		ご家族より TEL	吉田 憲司	学38	令和3年1月17日	返信はがきより
脇田 恭志	学5	令和2年8月	ご家族より TEL	後藤真理子	学57	令和3年9月30日	返信はがきより

卒業生のひろば

支部、同窓会、会員短信

■兵庫支部だより

事務局 武田 和義 (学17)

兵庫県池戸会は、隔年ごとに開催しています。令和元年6月2日に近畿合同（奈良）で開催して以来、コロナ禍の影響により開催しておりませんが、最近は下火になってきました。このまま収束すれば、令和5年に神戸で開催しますので、参加をお願いします。例年どおり7月の第1日曜日を予定しています。

さて、体力維持のため定期的に家の近くをジョギングしていました。コロナ禍のため外出することが少なくなってしまいました。最近はめっきり体力が低下してしまい、今まで自転車で上っていた坂を、こいで上がるのに苦勞しています。座っているところから立ち上がろうとするのにも気合を入れなければならず、加齢の影響を感じているところです。若い時によく山に登っていたのを懐かしく思い出します。これから体力を付けていろいろやってみようと思っています。

■高松龍雲支部だより

高松龍雲支部長 白坂 正明 (学1)

高松龍雲支部は、高松市の南部の地域、一宮町、仏生山町、多肥町、三谷町の旧4町を区域として池戸会龍雲支部の名称で昭和53年2月に会員83名で発足しました。当時の池戸会会長は前場重信先輩（木田農36回昭和16年度卒）、龍雲支部長七条雄一先輩（木田農19回大正13年度卒）で、両先輩には昭和31年（第1回卒）以来公私にわたりご指導を賜り、龍雲支部の発展に貢献して頂き感謝いたしております。毎年盛大に親睦会が開催できたことが懐かしく思います。

今は、支部会員が高齢で亡くなって会員数が少なくなり、龍雲支部区域の卒業生数も少なくなりました。新型コロナウイルス禍が落ち着いた時期に、親睦会は、高松市内6支部合同で新池戸会会長を迎えて盛大に開催することを提唱します。よろしくお願いします。この写真は、前場重信池戸会会長を迎えて平成5年に仏生山町明月にて親睦会を開催した時の写真です。殆ど高齢で亡くなっていますが懐かしい写真です。



■西讃支部だより

合田 隆弘 (学29)

2022年9月17日、久しぶりに西讃支部役員会を開いた。2019年の支部総会以来、コロナのせいで支部活動は滞っており、3年ぶりの顔合わせとなった。11名の参加予定であったのだが、1名はコロナ濃厚接触者になってしまい、また2名は台風直前ということで忙しくて参加できず、結局8名のみが集まった。

支部長より挨拶の後、西讃支部の副支部長である岩田豊志氏が、池戸会本部の会長に選任されたとの報告があった。当支部としては誠に名誉なことなので、祝賀会を設けたいが、コロナが未だ収束しない状況では何もできないのが残念である。

今回、役員に集まっていたいただいたのは会計報告をするためである。監査の終わった「会計報告書」と「支出の内訳書」を集まった役員に見ていただき了解をさせていただいた。

今後どうするかを少し話し合ったのだが、現在のような状況では予定は立てられないだろうということになった。そして様子を見つつ、支部総会を開くタイミングを探ろうということが決まり、会を閉じた。



■徳島支部だより

徳島支部長 川崎 陽通 (学24)

徳島支部では、令和2年10月に続き令和3年10月の支部総会も新型コロナウイルス感染拡大のため中止を余儀なくされました。

以上のようにこの1年間徳島支部としてほとんど何も活動することなく経過してしまい、残念ながらここでご報告する活動内容も写真もありません。

そこで今回の「徳島支部だより」としては、以下現時点での支部活動の今後の見通し、目標などの記載とさせていただきます。本拙文を皆様が目に見える時点でその見通し目標が大きく変貌しているかもしれないことを恐れずに。

さて今年（令和4年）10月こそ、支部総会の3年ぶりの開催ができるのではと期待していたのですが、令和4年9月現在新型コロナウイルス感染第7波の中にあり、その開催が危ぶまれる状況にあります。総会開催に関してはいろいろな考え方があるかとは思われますが、会員の皆さんが心から安心して総会に出席できる環境が第一と考え、感染拡大の懸念される多人数での飲食が憚られる現状での総会開催は控えるべきではないかと思案しております。

しかしながら、このまま3年間ずるずると総会を中止することになると支部活動が途切れてしまうのではとの不安がよぎるところでもあります。

徳島支部ではこれまで4年に一度「徳島県池戸会報」を発刊してきており、今年がその「会報11号」発刊の年。そこで、この「徳島県池戸会報11号」を会員の皆さんからの寄稿を募り、コロナ禍の中ではありますが、なんとか発刊にこぎつけ、ささやかかも知れませんが支部活動継続の証としていきたいと、この発刊を検討しているところであります。

■ 広島支部だより

支部長 木村 博俊 (学17)

令和4年度支部役員会が9月10日昨年に続きつぼくさ農園(中山氏所有)で行われ、今年度の事業計画等が検討され、当初計画の通り11月に総会を行う事が決定されました。広島でもコロナ感染者数は依然多いものの第7波もピークアウトした模様で十分なコロナ対策の上、ウィズコロナの方向へ進みつつある様です。

私も今年度から支部長として6月の本部総会に初めて参加させていただき農学部周辺の変わり様に改めて驚かされましたが学生だった頃から50年、気が付けば70歳を過ぎた自分が居た感じです。

広島支部はメンバーの固定化・高齢化により、定例会への参加者も減少傾向にありますが、支部会員の方々は種々の活動を通じて元気に世間と共生されている様子です。

今後は現役世代(～65歳)の参加者が増えないかなあと思っはいますがまずは自身の健康状態を保つので精一杯か？



会員からの寄稿

それは1,000円でした

佐々木 省三 (学8・園芸)

私が入学したのは昭和35年、昨日のごとくですが、大昔のことです。その時の入学金1,000円、授業料年額9,000円、なるほど昭和は遠くになりかけりでしょうか。大学なのに、授業料が高校より安いと母は不思議がっていました。

しかし、その10,000円が準備できずに、とりあえず大分の田舎から出てきて、下宿の準備をしながら待ち当面の費用も含めて計30,000円を郵便為替で送金を受けて入学ができました。同級生は一学年4学科71人とこれもまた高校時代より少ないものでした。

授業料の9,000円は安く感じますが、そのころの県庁の初任給は6,000～7,000円程度とおもわれます。比較するとそれなりの価値ある額であることがわかります。我が家は母子家庭、どのように母は金策に走ったことか。息子は元来の鈍、気も回らず生きて行きましたが、歳を経て人並みの苦労もし、やっとわかってきているところです。

ところで現在の国立大入学金282,000円、授業料年額535,800円で県庁大卒初任給188,700円です。初任給で入学金は払えません。学びの価値が

高まったと思っておきましょう。

このころの我が国は、第二次世界大戦での敗戦の痛手、荒廃から立ち上がってきたところで「大学は出たけれど」と言われる就職難のころでした。その後の復興は世界が目を見張る発展の緒についた頃でしょうか。就職も順次好転してきましたが、しかし、我々が卒業のころは、まだまだその恩恵を受けるまでに至ってはいませんでした。

田舎の小学校のように少ない学生、先生との距離も近く銭湯でよく倉田教授と談笑し、小杉教授は講義中、自動車は欲しいが小さいのは嫌だと語ったことを思い出します。先生方でも、その小さい自家用車さえ持つ人はいませんでした。

不安と希望の混在のなか自信もないものの大言壮語するのが青春というのだろうか、腹をすかし下宿にたむろし語る友には恵まれた学生時代でした。

池戸、平木、日々姿を変える街並みですが、歩いてみると学生時代の思い、懐かしさがよみがえってきます。母校周辺の散策を会員の皆様に提案します。

年会費・寄付金の
入金に便利！

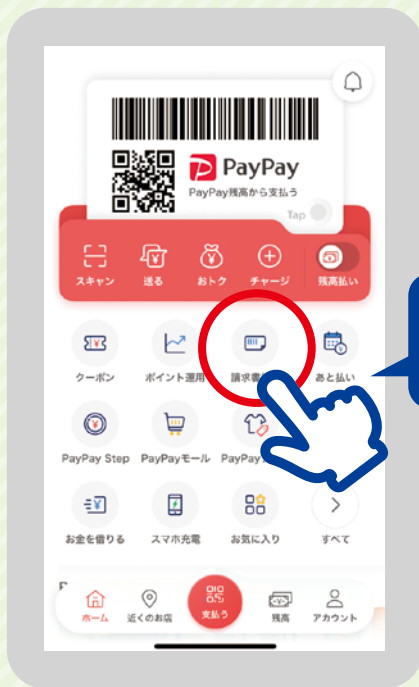
🏠
ご自宅からでも
入金可能！



PayPayが利用できる ようになりました。

いつでも！
どこからでも！**簡単にお支払いいただけます！！**

Step 1



請求書払い
を選択

Step 2



内容を読んで
〔請求書を読み取る〕
をタップ

Step 3



コードリーダーで
振込用紙表面の
バーコードを
読み取ってください

Step 4



支払先の
「小野高速印刷株式会社」は
同窓会が委託した
専門の代行業者です

内容を確認して
〔お支払い〕



IKENOBEKAI NEWS vol.64

会費納入および住所調査のお願い

本会報に同封の郵便振替用紙又はコンビニ振込にて、年会費2千円の納入をお願いします。数年分まとめて振り込んでいただいても、各支部でまとめて納入いただいても結構です。(80歳以上の方は無料です。)また、この会報送付時の宛名紙に印刷された返信ハガキにて最新住所情報等をお寄せ願います。なお、本会報の発送業務は印刷会社に委託しました。

池戸会報 vol.64

発行：2022年12月

印刷：2022年12月

発行所：香川大学農学部池戸会

〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸2393

TEL・FAX 087-898-8615

E-mail: ikenobe-ag@kagawa-u.ac.jp

郵便振替口座 01620-1-5001 (香川大学農学部池戸会)

編集担当：多田 (学28)、木村 (学31)、奥田 (学34)、

一見 (学37)、田淵 (学37)、渡邊 (学38)、

田中 (学40)、五味 (博15)、山口 (修32)、

米倉 (修32)、吉原 (学49)、杉山 (学50)、

松沢 (学53)、田坂 (事務局)

印刷所：小野高速印刷株式会社

〒870-0913 大分県大分市松原町2-1-6

TEL 097-558-3444 FAX 097-552-2301